

岩野先生は、3年程前に亡くなった主人の母の主治医でした。
最期の看取りもして頂きました。

今は、私の父の主治医としてお世話になっております。

父は現在91才です。

泉像市日の里で、おひとり暮らしをしていましたので、
私が毎日、車で実家に通い、父の身の回りの世話をしてきましてが、
先月、住宅型有料老人ホームに移り、元気で過ごしております。

父の介護認定は、要介護3です。

おおよそ40年程前、仕事で出張中に車の事故で頸髄損傷により
身体障害者手帳の2級を持っています。

在宅医療を受けることになったのは、一年程前に、

父が誤えん性肺炎で入院したのがきっかけです。

治療で回復しましたが、入院生活であまり足腰が弱ってしまいました。

当然のことながら、父は退院後は、絶対家に帰りたいと言いますし、

私も父の思いをかなえてあげたいと思っていましたので、

担当のケアマネジャーさんに相談しました。

そこで、まず、自宅で生活できるだけの体力をつけましょう、ということ
でリハビリを続け、退院して頂きました。

父は頸髄損傷の影響から、長年ずっと大量のクスリを
毎日、服用していました。しかし、退院後は、かかりつけの病院に
自力で診察を受けに通うのは無理だろう、というケアマネジャー
さんの判断で、コールメデイカルの先生に主治医になってもらう
手続きをとって頂きました。それ以降、2週間おきに
往診に来て頂いております。

そして、訪問看護ステーションからは、日曜日ごとに来てもらって

リハビリの先生や看護師さん達に、父の体のケアをお願いしております。

今年の夏、父が体調をくずしたことがありました。
 訪問看護で来られた看護師さんが父のいつもとちがう体調の変化に気づいて、すぐコールメデイカルに連絡してもらえました。
 そして、午後には点滴の準備をして先生が往診にみえたのですが、幸いフスリの服用だけで、熱も下がり、
 10日程で回復しました。
 素早い対応のおかげで、悪化させずに済み、感謝しています。

ずっと父の身の回りの世話を続けてきましたが、正直な気持ちと言いますと、在宅医療を受ける前は、私の頭の角には、いつも不安な思いがありました。
 年を重ねるごとに父もどんどん体が弱ってきます。
 最近では、軽い認知症も出てきて、日常生活にも支障をきたす様になってきました。

一方で、介護する私も同じ様に年を取っていき、父の世話をする気力も体力も落ちてきました。
 時には、私の方が具合が悪い時でも父の元に通い、心身共に疲れ果てていた時もありました。
 そんな中で、父の容体が急変したら、私一人でどうしよう？
 そうした時、どのタイミングで救急車を呼ぼうか？
 おべて、私の判断に任されているのは、とてもしんどいことでした。
 また、なんとか私の手で病院へ連れて行けたとしても、診察や検査を待つ待ち時間は、とても長く長いものです。実際、待っている間に、車椅子の父がしんどそうに耐えているのは、連々添って、とてもつらいものでした。

こういった思いが在宅医療に切り替えることで、24時間対応で、コールメデイカルの先生にお世話になることができ、父はもちろんのことですが、同時に私も救われた思いで感謝しています。

先程、お話ししました様に、父は今施設で生活しています。
ですが、自宅にいた時と同じ様に、コールメイトの先生やスタッフの
方々、リハビリの先生、看護士さん、どの方も同じ顔ぶれで、
現在も施設に通って、父の体のケアとして頂いています。
おかげで、父もとてもリラックスして過ごしているようです。

古賀で、長谷川先生が在宅医療として病院を開かれたのは、
とても心強いことです。

もちろん、在宅医療に携わる先生やスタッフの方々の負担は相当
大きいものだろうと思いますが、

古賀の地でも、家にいながらにして診察を受けられるこのしくみ
が、これから少しずつ広がって頂けたら、有難い限りです。

高橋、紀子

メッセージ

福岡女学院看護大学の松尾です。古賀市民の方々には、学生共々お世話になっております。

本日は、古賀で「在宅医療のススメ」の講演会・シンポジウムの開催、おめでとうございます。今回、私は、都合で参加できませんが、打ち合わせには、参加させていただきました。その関係で、メッセージの機会をいただきました。会の成功を祈り、一言、述べさせていただきます。

人生100年時代、だれもが健康長寿を願い、そして、自分らしく生き抜きたいと思っています。そのためには、最期の時間をどのように過ごすか、それはとても大切なテーマです。

私の両親は、ともに90を過ぎていますが、願わくば、「大好きな家で暮らし続け、また最期を迎えたい」と思っているようです。私もできることなら家族としてその願いをかなえてあげたいと思っています。しかし、それを具体的に考える時、果たして、療養生活の日常的な世話や、急変時の対応、また、万一の時の対応、経済的なこと等々、様々な状況に対する適切な判断や対処が、家族だけでできるだろうか不安になります。そのような家族にのしかかる心配・不安の数々が、その判断を迷わせてしまいます。そんなことを考える人は少なくないと思います。

今秋、古賀市に、待望されていた訪問診療を行う「薬王寺在宅クリニック」が開業しました。それをきっかけに、古賀市での在宅療養・看取りの可能性が広がりました。今日の話は、在宅医療を実際に体験した方のお話とそれをしっかり支えてくださる医療スタッフの方々のお話です。講演会後に、皆様が、家で看る・(看取る)ことに対する心の負担が少しでも軽くなり、在宅医療が少しでも身近に感じる機会になることを願っています。

2019年11月23日

松尾和枝 (福岡女学院看護大学 教授)